
第15期 事業報告書

第15期:2025年5月1日 ~ 2026年4月30日



2026年 6 月 26日

特定非営利活動法人Switch

目次

	ページ
1. はじめに	P. 1
2. 2025 年度事業報告	P. 2
事業の実施に関する事項（定款記載項目番号に沿って該当事業のみを記載）	
（1）障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）に関する事業	
① 自立訓練（生活訓練） 障害福祉サービス事業所「スイッチ・イシノマキ」	
② 就労移行支援事業 障害福祉サービス事業所「スイッチ・センダイ」	P. 3
③ 就労継続支援事業 就労定着支援事業 就労定着支援スイッチ	P. 4
（2）障害者就労定着支援事業（ジョブコーチ支援、フォローアップ支援）	P. 5
フォローアップ支援 （OB 会）	
（3）就学・就労支援事業	
・ユースサポートカレッジ石巻 NOTE	P. 6
・令和7年度仙台市若者自立・就労支援事業（ユース PASS0）	P. 7-8
（5）研究事業（障がい者の理解促進を図る啓発活動、調査研究および政策提言に係る事業）	P. 9
（6）研修事業（マネージメントサポート・講演会・ボランティア養成等）	P. 10
（7）インターンシップ事業	P. 11
（12）その他、第3条の目的を達成するために必要な事業	
・校内居場所カフェを震災後支援から常時の支援へつなげていく事業	P. 12-13
・宮城県若者こころの支援事業	P. 14-15
・東北工業大学 キャリア講座委託	P. 16
・令和7年度宮城県オンライン居場所支援モデル事業	P. 17
・宮城県刑務所出所者等就労・定着ネットワーク事業「リ・トライ！」	P. 18
・仙台市災害こころネットモデル 委託事業	P. 19
・ひきこもり者への支援つき短期アルバイトの提供と、企業ネットワークの構築	P. 20-21
・多様な価値観を活かし、切れ目のない若者支援実現に向けた組織変革プロジェクト	P. 22
3. メディア掲載	P. 23-24

1. はじめに

2011年の法人設立以来、NPO法人Switchは、さまざまな生きづらさや困難を抱える若者と向き合い続けてきました。

それから15年、私たちの取組は大きく

障害福祉サービス事業

ユースサポート事業

多様な居場所づくり事業

メンタルヘルス事業

企業連携事業

少年院・刑務所出所者支援事業

という6つの領域に広がり、多様な背景を持つ若者一人ひとりの「働く」「学ぶ」「地域で生きる」を支える実践を重ねてきました。

この15年間、活動を継続することができたのは、日頃より応援してくださる皆様、連携いただく地域・企業・学校・行政・関係機関の皆様、そして何より、現場で粘り強く若者と向き合い続けているスタッフの存在があってこそです。心より感謝申し上げます。

私たちはこれまで、仙台市および石巻圏域を中心に活動し、目の前の若者一人ひとりに深く向き合うことを重視してきました。その一方で、多地域展開や組織規模の拡大については、意識的に慎重な姿勢を取ってきた経緯があります。

しかし、法人設立から15年を迎えた今、5年後、10年後の地域社会における役割や、取組の持続可能性を考えたとき、私たちは新たな段階に入ったと感じています。

近年、支援ニーズは急速に増加しています。制度の枠組みだけでは十分に対応しきれない、いわゆる「グレーゾーン」に位置づけられる若者への支援も、確実に増え続けています。相談につながりにくい若者、制度の対象に当てはまりにくい若者、支援につながっても途中で離れてしまう若者—そうした方々への支援のあり方が、改めて問われています。

私たちはこれまで培ってきた、「制度と制度外を行き来しながら支える支援」、そして居場所的要素を含んだ伴走型の若者支援を、より持続可能な形で地域に広げていきたいと考えています。

その実現に向け、今後3年間、私たちは主に以下の5つのテーマに取り組みます。

拠点展開：新たな地域での事業展開を進めること

公民連携：自治体、企業、学校等との継続的な対話と連携強化

ファンドレイジング：寄付基盤を強化し、持続可能な財務構造の構築

IT基盤整備：記録・管理システムの更新による業務効率化と支援品質向上

経営管理体制強化：組織基盤整備、人材育成、認証取得等による経営強化

私たちが目指したいのは「若者が『働く』『学ぶ』ことをあきらめなくてよい社会」を支える、地域の社会インフラとなることです。

この挑戦は、法人の次の3年間だけでなく、その先の東北の若者支援の未来を大きく左右する取組になるとも考えています。

これからも、若者一人ひとりの可能性を信じ、地域の皆様とともに歩みながら、よりよい社会の実現に向けて挑戦を続けてまいります。

今後とも、NPO法人Switchへの変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2026年6月

代表理事 今野 純太郎

代表理事 小野 彩香

2. 2025 年度事業報告（定款記載項目番号に沿って該当事業のみを記載）

（1）障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）に関する事業

① 自立訓練（生活訓練）「スイッチ・イシノマキ」

◆成果と今後の課題

2025 年度は、新規相談者数 13 名、新規登録者数 5 名、年間在籍者数 11 名であった。進路実績としては、障害者雇用による就職 1 名、就労継続支援 A 型事業所への移行 1 名、就労移行支援事業所への移行 1 名となった。

今年度は、社会生活の自立度評価指標（SIM）を導入し、利用者の社会生活力や支援が必要な領域を把握しながら、個別支援計画や日々の支援に活用した。利用者自身が現在の状況や課題を客観的に理解する機会となり、自己理解の促進や社会生活上の目標設定、将来の進路選択につなげることができている。また、朝礼・昼礼を導入し、時間を意識した行動習慣や生活リズムの形成に取り組んだ。加えて、散歩や卓球等の運動プログラムを継続的に実施し、体力づくりやセルフケアの機会を提供した。働くことを見据えた支援として、企業見学や実習、就職面接会への参加支援を行い、利用者が働く現場を知り、自身に合った働き方や進路について考える機会を提供した。また、企業見学や実習の受入先として新たに 6 件の事業所を開拓し、利用者の進路選択の幅を広げることができた。進路選択や就職を希望する利用者に対しては、個々の状況に応じた就職支援を行い、進路決定につなげることができた。地域連携では、就労部会やハローワーク石巻圏域ネットワーク会議、石巻支援学校事業所説明会、関係機関による情報交換会等へ参加し、地域の支援機関との連携強化に努めた。

課題としては登録者数の確保である。2025 年度は新規相談者数が増加した一方で、利用開始に至らないケースも見られた。今後も関係機関への周知や事業所説明会の開催を継続し、地域における認知度向上を図るとともに、必要な方を利用につなげられるよう取り組んでいきたい。

◆実績・活動内容

■2025 年 新規相談件数（13 件）

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
1	6	4	1	1	0

男女比

男性	女性
4	9

■紹介元

行政機関	相談支援機関	医療機関	ハローワーク	パンフレット	石巻 NOTE	教育機関	HP メディア	知人・家族	その他
0	10	2	0	1	0	0	0	0	0

※その他の内訳・・・該当なし

■2025 年在籍者数 自立訓練（11 名）

年代・男女別人数

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代
0	6	4	1	0	0

男性	女性
6	5

卒業者内訳（退所理由）

就継 B	就継 A	移行支援	就職	体調不良	期間満了	その他
0	1	1	1	0	1	1

■活動内容

コミュニケーション・体調管理・ストレス対処・就労準備等の講座や、散歩・卓球等の運動プログラムを実施した。働くイメージの具体化や進路選択につなげるため、企業見学や実習、就職面接会への参加支援等の施設外活動を実施した。個別活動としては、PC 訓練、求人情報の閲覧、障害理解のための学習、創作活動等を行った。また、社会生活の自立度評価指標（SIM）を導入し、利用者の社会生活力や課題の把握、自己理解の促進に活用、その他調理実習や災害食体験を実施し、生活スキルの向上を図った。

（執筆担当：我妻千絵・長岡千裕）



②就労移行支援事業 「スイッチ・センダイ」

◆成果と今後の課題

2025年度は、新規登録が41名、就職者が17名であった。

2025年度は初回相談（インテーク）総数が104件と昨年度よりも約10%増となっている。2025年度の初回相談（インテーク）では一般利用希望者、復職利用希望者は半数ずつの割合となった。初回相談（インテーク）接続のルートとしては、例年通り病院からの紹介が多い。復職利用希望者では所属先企業・事業所から紹介されるケースも増えてきており、企業からのニーズの高まりも感じた。

また、卒業生からのアンケート（2025年度）によると、卒業までの期間は1ヶ月～3ヶ月：22% 4ヶ月～6ヶ月：39% 7ヶ月～9ヶ月：17% 10ヶ月～12ヶ月：4% 13ヶ月以上：17%となっており、82%の方が1年以内、61%の方が半年以内に就職することが出来ている。また、就職者の勤務時間は週20時間未満：17% 週20時間以上30時間未満：22% 週30時間以上（フルタイム）：61%となった。

一般利用・復職利用ともに、担当による個別伴走の中での面談やCBT等の講座、企業見学・実習の効果を強く感じて卒業していく方が多く、引き続き「自分らしく働く」ための個別支援を大切にしていける。IPS（IPS：Individual Placement and Support※個別伴走型就労支援）の項目における満足度も各項目4点満点中平均3.67と一定程度の評価は得られており、職員の個別伴走スキルは一定程度担保することが出来たと考えられる。

2025年度は初回相談（インテーク）が100件を超えたが、今後も新規登録につながるための差別化（他機関との違い）を示すことは引き続き課題となっている。また、他機関と連携しながら利用者にとってより良い選択ができるようアプローチしていくことも必要になると感じている。

◆2025年度 実績

新規相談受理数	新規登録者数	年間在籍者実数	就職者数	6ヶ月定着率
104	41	89	27	89%
(昨年度比) 113%	120%	123%	96%	130%
就職者詳細	□ 障害開示：16 障害非開示：11 A型：1 □就職：19 復職：8 □正規雇用：14 非正規雇用：14			

紹介元内訳

病院	役所	相談支援事業所	ハローワーク	職業センターはたらぽと	就労支援事業所等	職場・学校	家族・知人
48	9	4	0	2	2	4	2
Web	パンフレット	再利用	アーチル	ユース PASSO	難病サポートセンター	その他	
5	4	5	1	6	0	12	

*その他 内訳に含まれない相談支援機関等

2025年度 在籍者年齢層

10代	20代	30代	40代	50代	60代
1	42	22	15	8	1

◆活動内容

個別担当制の伴走型就労支援（IPS）を実践している。

個別担当制の中、認知行動プログラム、コミュニケーション、セルフケア、就活講座、PC講座、の5つをプログラムの柱としながら、見学や実習体験、他機関との連携等利用者一人ひとりに合わせた個別的就労支援を実施。



(執筆担当 三上綾佳)

③就労継続支援事業

就労定着支援スイッチ

◆成果と今後の課題

2025 年度は新規開始が 9 名、継続利用者が 10 名となった。年度内で離職者はいたが、全体としての定着率は 8 割以上を維持することができた。

定着支援期間満了で修了する数も増えてきている。「自分らしく働く」こと、その方それぞれの Well-being を大事にできる就業生活を続けて行けるよう、引き続きサポートを行っていく。

◆実績 2025 年度 就労定着支援事業 利用状況

在籍者数	うち、期間満了修了者	うち、離職者数
17	3	2

(執筆担当 三上綾佳)

(2) 障害者就労定着支援事業（ジョブコーチ支援、フォローアップ支援）

■フォローアップ支援事業

スイッチ・センダイ OB 会

◆成果と今後の課題

2025 年度も OB 会を年 4 回実施。コロナで中断していた OB 会を再開して 3 年になるが、今年度は昨年度の参加者の声を反映させ、フリートークと併せて、ワークやプチ講座等を取り入れる時間を多くとった。

スイッチ・センダイに通所していた時と同様の講座でも、参加者が社会人となると、出てくる事例は社会人特有のものとなっており、各々が実際の困りごと等をうまく事例として出しながら実用的な時間となっているとの声が聞かれた。参加者も、毎回参加の方もいれば、不定期参加の方もいる中で毎回 7 名～10 名の方が参加しており、変わらず高い需要がある事が伺える。

課題としては、夜間開催という事もあり参加者、参加職員より負担の声も聞かれることがある為、より双方に負担が少なく、且つ有用な時間にしていけると良いと考える。

◆実績・活動内容

3 か月に 1 度、年 4 回実施

2025/6/20	2025/9/26	2025/12/19	2026/2/20
10 名参加	8 名参加	7 名参加	7 名参加
フリートーク 課題解決ワーク	プチ講座 フリートーク	クリスマスイベント 近況報告	年度末の近況共有 フリートーク



(執筆担当 田口雄太)

(3) 就学・就労支援事業

■ユースサポートカレッジ 石巻 NOTE

◆成果と今後の課題

2025 年度は登録者数こそ前年度をやや下回ったものの、新規相談者数は前年度の 11 名から 27 名へ増加した。また、利用者数や相談件数、電話・メール等による支援提供数はいずれも増加している。進路決定者数は 14 名であり、就労 12 名、就学・復学 2 名であり、福祉サービスへの移行は 0 件だった。

今年度は就労支援を重点的に実施し、職場開拓に取り組みながら職場見学や実習の機会を提供した。また、各種講座や個別相談を通して、就労準備や進路選択に必要な力を身につけられるよう支援を行った。

絆力事業による高校内居場所カフェの取り組みを通して、高校との連携が強化されたことも今年度の成果である。教員からの相談をきっかけに石巻 NOTE への接続につながるケースが増加し、在学中から卒業後を見据えた早期支援や切れ目のない支援の提供につながった。また、新規相談者の紹介元も多様化しており地域における若者支援機関としての期待の高まりがうかがえる。さらに、地域の若者支援団体等と連携しながら、体験バイトやボランティア活動等の機会へ利用者をつなぎ、地域の一員として様々な経験を積む機会を提供した。地域団体にとっても、これまで参加につながりにくかった若者へ機会を届けることができ、協働の可能性を感じる取り組みとなった。

NOTE を利用する若者の状態像としては従来通り多様であり、16 歳から 20 代までの若者は教育から社会への移行、福祉への移行とさまざまな「移行」に直面する時期である。高校内居場所カフェから NOTE へつながるケースも増加しており、移行期を切れ目なく支える支援の重要性を改めて実感している。若者自身の「自分らしい進路決定」を支える機関として、引き続き取り組んでいく。

課題としては、引き続き職場実習先の開拓や企業との連携強化があげられる。また、多様な困難や生きづらさを抱える若者への支援ニーズに対応するため、若者支援団体との連携をさらに進めていく必要がある。今年度は関連する助成事業の活用には至らなかったが、地域の課題やニーズを把握しながら事業化を進め、安定的な事業運営に向けた資金確保にも取り組んでいきたい。加えて、多様なニーズに対応できるよう職員のスキル向上や専門性の強化にも取り組んでいきたい。

◆実績

登録者数	新規相談者数	利用者数	相談件数	電話対応	メール対応	Zoom 対応
59 名	27 名	延べ 2, 336 名	332 件	462 件	404 件	3 件

※新規相談の紹介元：市保健推進課、高校・大学等の教育機関、児童相談所、支援機関、café からの接続等

職場見学・実習参加者	講座参加者	アウトリーチ件数
延べ 76 名	延べ 319 名	延べ 28 件

進路決定者数	帰すう（進路決定先）
14 名	就労 12 名、 就学・復学 2 名、 福祉への移行 0 名

※関連助成事業等：（詳細は後ページにて）

・校内居場所カフェを震災後支援から常時の支援へ繋げていく事業（令和 7 年度宮城県 NPO 等の絆力を活かした震災復興支援事業）



（執筆担当 長岡 千裕）

■令和7年度 仙台市若者自立・就労支援事業（ユースPASSO）

◆成果と実績

本事業は、令和5年度のモデル事業から始まり3年目となった。仙台市内に在住または通勤・通学している中学校卒業以降～39歳までの方を対象に、自立・就労に向けた一人ひとりの目標・ニーズに合わせた伴走サポートを引き続き実施した。年度末時点での継続登録者数は132名と、前年度に比べるとやや減少傾向にあるが、これは年間の進路決定者数が65名と従来を大きく上回る実績であったことが影響している。利用者の進路は、パート・アルバイトへの就職決定を中心に、正社員や派遣・契約社員への就職、進学、福祉サービスへの接続など幅広い。これらの進路決定はいずれも、ユースPASSOでの講座・プログラムや安心できるフリースペースへの通所、実習プログラムや職場体験等の場を通じて、利用者一人ひとりが、スタッフの伴走サポートを適宜受けながら主体的にチャレンジを継続し、それぞれの一步を踏み出した結果である。

支援にあたっては、利用者が安心して過ごすことのできる場づくり、次の一步に向けたチャレンジにつながるようなプログラム運営を心がけた。また、日頃の講座・プログラム・個別相談などの場を通じて、利用者一人ひとりと丁寧に接しながら、今の状態像や進路選択に向けたニーズをその都度適切に把握するように努めた。利用者自身が安心して自分から新たなステップへ踏み出せるよう、その場に応じた声掛けや環境調整など、伴走サポートを行うことができた。

◆課題と考察

利用者が安心して過ごせる場づくりに向けて、引き続き適切なスペース確保など、安全な事業所運営に向けた検討・工夫を十分に行っていききたい。また、多様な講座プログラムの用意があることはユースPASSOの強みではあるものの、内容が多岐にわたることで、一方では一部講座に人気が集中したり、各講座の良さや受講することで得られる知識・効果等の情報が利用者へうまく行き届いていなかったりする場合がある。現行の講座プログラム良さを生かしつつ、日々のかかわりの中で利用者ニーズを丁寧に捉え、それらを柔軟に取り入れることで、今後も利用者が「ぜひ参加してみたい」と思えるようなプログラム運営を工夫していききたい。



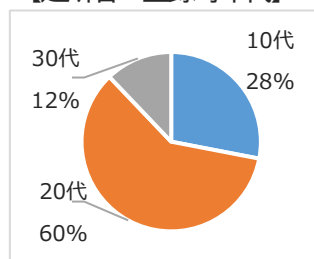
◆実績データ

継続登録者数（R8.3月時）	累計登録者数（R5年度～）	延べ利用者数	新規相談受付数
132名（男性67・女性65）	232名	2,714名	88名

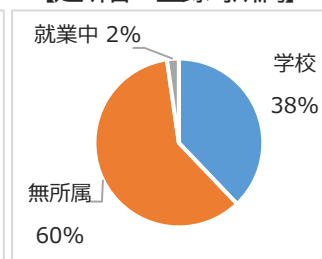
個別相談件数	講座参加者数	職場見学/体験件数	アウトリーチ支援件数
延べ1,332件	延べ977名	延べ49名	7名（延べ382件）

夕方夜間居場所利用者数	オンライン居場所利用者数	進路決定者数
延べ230名	延べ22名	65名（就労52・進学3・福祉サービス移行10）

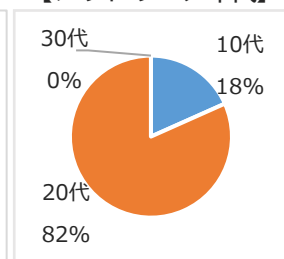
【通所者：登録時代】



【通所者：登録時所属】



【アウトリーチ年代】

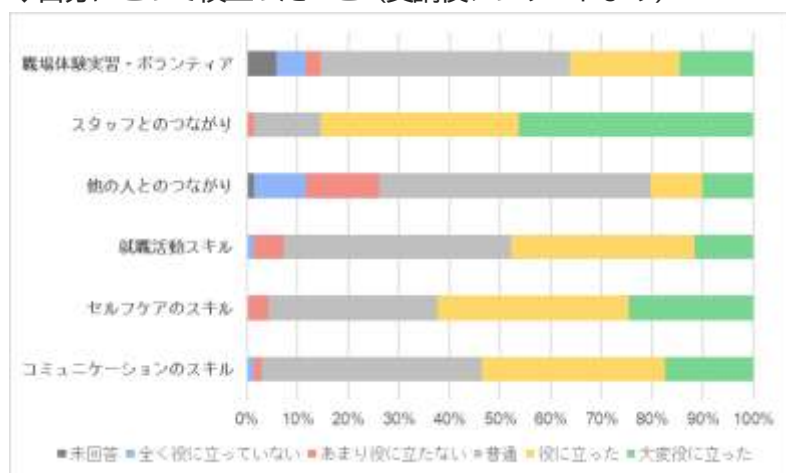


【アウトリーチ先】



通所の利用者層は、10代後半～20代が8割以上を占めており、約6割が無所属の方（進路未決定のまま卒業や中退した方、一度は就職したがその後無業状態の長い方など）、4割近くが学生の方である。相談傾向としては、就職に関する相談が最も多く、精神面の不安、復学・進路、身体面不調などに関する相談も多い。アウトリーチ支援では、本人との定期的なかかわりを中心に、必要に応じて家族や支援機関など、周囲へのサポート・環境調整も随時行っている。

◆自分にとって役立ったこと（受講後アンケートより）

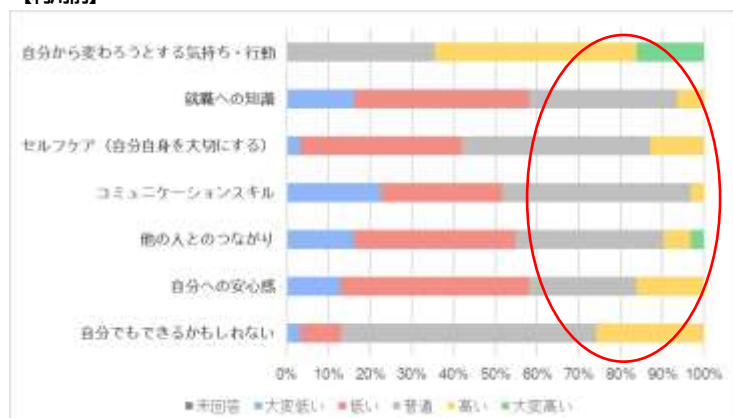


令和7年度受講後アンケートでは、「スタッフとのつながり」が役立ったと回答する層が大変多かった。自由記述でも、外に出て社会とかかわる機会ができたことや相談できることへの安心感に関する好意的な感想を多くいただいた。

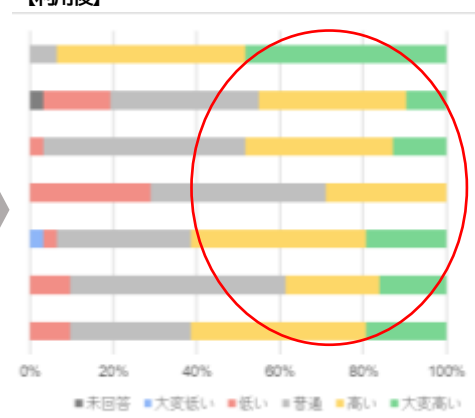
また、就職に向けた知識・準備、コミュニケーション、セルフケアや生活リズムなどメンタルヘルス意識の高まりなど、ユースPASSOに来ることで意欲・行動変化のきっかけとなったという声も多かった。

◆利用者の変化について（n=31 令和7年度進路決定者のうち利用前・利用後アンケート回答済の方を対象）

【利用前】



【利用後】



進路決定者の利用前後を比較すると、気持ち・行動面で多くの前向きな変化が見られた。令和7年度は特に、自分から変わろうとする気持ち（行動）、他の人とのつながり、自分でもできるかもしれない気持ちについて「大変高い」「高い」と答えた層の伸び率が大変高かった。一人ひとりが利用を通じて、自分への安心感・社会とのつながり感を持ちながら、次のステップに向けた一歩を踏み出す自信・行動力につながったことがうかがえる。

（執筆担当：小関美江・山田ゆかり）

(5) 研究事業（障がい者の理解促進を図る啓発活動、調査研究および政策提言に係る事業）

【委員委嘱等】

- ・ 仙台市障害者施策推進協議会委員 委嘱（小野）
- ・ 仙台市自殺対策連絡協議会委員 委嘱（小野・小関）
- ・ 宮城県いじめ防止対策調査委員会委員 委嘱（小野）
- ・ NPO 法人 仙台市精神保健福祉団体連絡協議会 運営委員・理事（小野）
- ・ 石巻市子どもセンター運営会議委員（田口）
- ・ 社会福祉法人涌谷町社会福祉協議会 重層的支援体制整備事業 参加支援事業検討会 委員（長岡）
- ・ 仙台市男女共同参画審議会 委員 委嘱（今野）
- ・ 仙台家庭裁判所 家庭裁判所委員会 委員（今野）
- ・ 宮城県民間非営利活動促進委員会委員 委嘱（小野）
- ・ 仙台市ひきこもり支援体制評価委員 委嘱（小野）

【加盟団体】

会員団体一覧

新公益連盟、日本精神障害者リハビリテーション学会、日本 NPO 学会、日本精神保健・予防学会、NPO 法人仙台市精神保健福祉団体連絡協議会、宮城県中小企業家同友会、公益社団法人仙台中法人会、せんだい・みやぎ NPO センター、宮城県社会福祉協議会、仙台市社会福祉協議会、宮城野区社会福祉協議会、日本 IPS アソシエーション、宮城就業支援ネットワーク

【論文・発表・執筆 等】

- ・ 一般財団法人 宮城県公衆衛生協会「公衆衛生情報みやぎ」2026 年 2 月号『宮城県ひきこもりオンライン居場所「おらんちラウンジ」について』（小野）
- ・ 日本更生保護協会「更生保護」令和 7 年 12 月号「就労支援の今とこれから」（今野）
- ・ 仙台市保護司会連絡協議会 令和 8 年 1 月「しほれん 第 29 号」「ともに歩む存在として」（今野）
- ・ 日本刑事政策研究会「罪と罰」令和 8 年 3 月号「宮城県における刑務所出所者等の社会復帰に向けた取組」（今野）
- ・ 法務省「令和 7 年再犯防止推進白書」『孤立を希望に変える場所』～出所者支援の新しいかたち「リ・トライ！」の取組～（今野）

(6) 研修事業（マネージメントサポート・講演会・ボランティア養成）

【講演・研修】

- 2025 年 5 月 宮城県更生保護協会理事評議員会 「宮城県刑務所出所者等就労定着ネットワーク事業リ・トライ！について」講師（今野）
- 2025 年 6 月 東北医科薬科大学 セルフケア講座 講師（加藤）
- 2025 年 6 月 宮城県涌谷高等学校 『働く人に聞いてみた！』 講師（高橋）
- 2025 年 7 月 特定非営利活動法人 仙台市精神保健福祉団体連絡協議会 精神保健福祉スキルアップ研修「日頃のかかわりを振り返る」 講師（長岡）
- 2025 年 7 月 宮城就業支援ネットワーク 2025 年度 第 1 回セミナー『障害者雇用・就労支援を巡る現状と取組むべき課題』 講師（田口）
- 2025 年 7 月 仙台市立仙台大志高等学校 総合探求学習講座 講師（小関・加藤）
- 2025 年 7 月 特定非営利活動法人ソーシャルデザインワークス『IPS 支援モデルに関する講義および実践事例の

- 紹介』研修 講師（田口）
- 2025 年 8 月 愛子すぎのこども園『ストレスマネジメント』に対するセルフケアについて』 講師（小野）
- 2025 年 8 月 一般社団法人宮城県中小企業家同友会共生福祉部会 障害者雇用の相談会～障害者雇用のはじめの
一歩相談会～ 登壇（今野・田口）
- 2025 年 9 月 亶理町民生委員児童委員協議会 ゲートキーパー養成研修 講師（小関・加藤）
- 2025 年 9 月 社会福祉法人永楽会 支援施設あさいな虐待防止研修『メンタルヘルス、ストレスマネジメント、ア
ンガーマネジメント』 講師（小野）
- 2025 年 9 月 仙台市こども若者相談支援センター（街頭指導員）来所研修（小関・本間）
- 2025 年 10 月 東北医科薬科大学「地域支援論」 講師（今野）
- 2025 年 10 月 東北福祉大学『メンタルヘルス』特別講座 ゲストスピーカー登壇（小関・加藤）
- 2025 年 10 月 NPO 法人ジョブコーチ・ネットワーク 第 74 期 JC-NET ジョブコーチ養成研修 講師（田口）
- 2025 年 10 月 宮城野地区保護司会『当法人の活動概要と更生保護及び地域連携について』 講師（今野）
- 2025 年 11 月 東北工業大学ライフデザイン学科「NPO 経営論」 講師（今野）
- 2025 年 11 月 亶理町役場 職員対象ゲートキーパー養成講座 講師（小関・加藤）
- 2025 年 11 月 仙台市自閉症児者相談センター 発達障害者家族教室『就労支援について』 講師（山田）
- 2025 年 11 月 福島就業支援ネットワーク JC-NET 就労支援実践フォーラム in 東北 講師派遣（田口）
- 2025 年 11 月 宮城大学地域創生学類 2 年：非営利組織論（地域組織論） 講師（今野）
- 2025 年 11 月 亶理町役場 職員対象ゲートキーパー養成講座 講師（小関・加藤）
- 2025 年 12 月 エルソーラ仙台 女子のための“ミニ”ほっとスペース女性相談（小関）
- 2025 年 12 月 仙台市若者のギャンブル等依存症に係る支援期間による座談会登壇（小関・本間）
- 2025 年 12 月 日本精神障害者リハビリテーション学会 研修セミナー「精神科リハビリテーション領域における
研究活動への取り組み方を考える」シンポジスト登壇（小野）
- 2026 年 1 月 JUSSIN 米日財団 米国出所者支援 NPO Youth Empowerment Project とのミーティング活動紹介
講師（今野・本間）
- 2026 年 1 月 法務省 東北矯正管区 令和 7 年度再犯防止推進セミナー 講師（今野）
- 2026 年 1 月 仙台市立南小泉中学校 夜間学級教職員研修 講師（小関）
- 2026 年 1 月 仙台市社会課「再犯防止シンポジウム」 講師、ファシリテーター（今野）
- 2026 年 1 月 東北地方更生保護委員会「リ・トライ！」活動紹介 講師（今野）
- 2026 年 1 月 宮城県作業療法士会との情報交換会 講師（今野・本間）
- 2026 年 2 月 法務省 東北矯正管区「再犯防止シンポジウム」 パネラー（今野）
- 2026 年 2 月 東北少年院書籍贈呈式参加（育て上げネット） 実践共有（今野）
- 2026 年 2 月 浄土宗東北地区教誨師・保護司・民生委員合同研修会 講師（小関・加藤）
- 2026 年 2 月 NPO 法人ジョブコーチ・ネットワーク 第 76 期 JC-NET ジョブコーチ養成研修 講師（田口）
- 2026 年 2 月 仙台白百合女子大学 就活スタートアップセミナー 講師（小関）
- 2026 年 2 月 「加害者家族から考える弱者が生きやすい社会」 パネラー（今野）
- 2026 年 3 月 青葉地区保護司会「保護司セミナー」 講師、パネラー（今野）
- 2026 年 3 月 仙台東ロータリークラブ講話「NPO による出所者支援の取組」 講師（今野）
- 2026 年 3 月 宮城県作業療法士会との情報交換 実践共有（今野・本間）

【表彰】

仙台保護観察所所長 感謝状
仙台東ロータリークラブ「優秀ボランティア団体」

(7) インターンシップ事業

- ・尚絅学院大学大学院総合人間科学研究科心理学専攻 臨床心理学コース公認心理師心理実践実習（加藤）
- ・NPO 法人ドットジェーピー 大学生インターンシップ受入（今野・小関）
- ・仙台市立上杉山中学校 職場体験学習 受入（スイッチ・センダイ）
- ・東北学院中学校 職場体験 受入（今野）
- ・東北公益文科大学 学生視察 受入（今野・小関）

(12) その他、第3条の目的を達成するために必要な事業

■校内居場所カフェを震災後支援から常時の支援へ繋げていく事業

事業名	校内居場所カフェを震災後支援から常時の支援へ繋げていく事業
助成委託団体・助成金名	令和7年度宮城県NPO等の絆力を活かした震災復興支援事業補助金事業
助成・委託期間	2025年6月1日～2026年3月31日まで
【事業概要】石巻圏域における高校内居場所カフェ「NOTE Cafe」の実施（常設校5校、新規校2校）、地域ネットワーク形成・研修会の実施、中長期計画の推進および基盤整備	

【事業内容】

(1)高校内居場所カフェ「NOTE Cafe」事業

1. 各学校のニーズや生徒の状況に応じた高校内居場所カフェの実施・運営
2. 生徒のニーズに応じた支援の実施
3. 在学中から卒業後までを見据えた支援の実施

(2)地域ネットワーク形成・人材育成事業

1. 教員、教育行政、若者支援団体等を対象としたネットワーク研修の実施
2. 高校内居場所カフェの実践共有や意見交換を通じた学校と地域支援機関の連携促進
3. 研修参加者による情報共有ネットワークの構築

(3)長期計画の推進

1. 若者支援中長期ビジョンに基づくアクションプランの策定及び実行
2. 利用者像の整理、広報物の見直し、協力企業の開拓等の実施
3. 事業の持続可能性向上に向けた体制整備及び事業内容の検討

【事業の成果】

(1)高校内居場所カフェ「NOTE Cafe」の実施（通年）

合計 48 回実施 参加人数延べ 768 名

内訳：

<定期実施校（月1回程度）>

- ・宮城県立石巻北高等学校飯野川校：7回 延べ110名（うち1回は3年生向け拡大プログラム）

プログラム）

- ・宮城県立東松島高等学校：8回 延べ47名

- ・石巻市立桜坂高等学校：9回 延べ172名（うち1回は3年生向け拡大プログラム）

- ・宮城県立石巻西高等学校：7回 延べ66名
- ・宮城県立涌谷高等学校：8回 延べ91名

<個別実施校（学校ニーズに応じて実施）>

- ・宮城県貞山高等学校：3回 延べ82名
- ・宮城県立田尻さくら高等学校：2回 延べ44名

<新規開設校>

- ・宮城県宮城広瀬高等学校：3回 延べ134名
- ・宮城県石巻工業高等学校：1回 延べ22名

昨年度は5校38回、延べ186名の参加であったが、今年度は9校48回、延べ768名となり、実施校数・参加人数ともに大きく増加した。また、高校訪問やカフェを通して4名が面談や支援機関等への接続につながった。

今年度は卒業生に加え、地域おこし協力隊や若者支援団体等の地域人材がボランティアとして参加した。また、宮城県立涌谷高等学校においては、高校内居場所カフェの取り組みが学校案内に掲載された。学校と継続的に取り組みを進めてきた成果の一つであり、生徒支援の取り組みとして学校内で認知が広がっていることがうかがえた。



他、卒業後の進路選択や相談先の情報をまとめた「進路選択ハンドブック」を増刷し、高校生への配布を行った。また、卒業後の孤立予防や相談先の周知を目的として「お守りカード」を作成し、カフェ実施校へ配布した。

(2)地域ネットワーク形成・人材育成事業

高校内居場所カフェネットワーク研修を全5回実施し、延べ59名の参加者であった。

【参加者の属性】

若者支援機関：32名 教員・学校関係者：10名 ・児童委員・民生委員：5名 ・PTA 連合会：1名
・その他：11名

【実施内容】

回	テーマ・内容
第1回	高校内居場所カフェとは何かー学校と支援機関の共通スタートラインー 講師:NPO 法人パノラマ 理事長 石井正宏氏
第2回	カフェスタッフ養成講座ー生徒とつながるカフェの環境設定とつながる力を学ぶー 講師:NPO 法人パノラマ 理事長 石井正宏氏
第3回	学校の中に居場所カフェをつくるー実践方法と組織的な連携を考えるーワークショップ形式 高校教育の様々な形と校内居場所カフェに期待することー実施校の導入事例とこれからの期待ー
第4回	講師:宮城県教育庁高校教育創造室県立高校開設準備室 第一班室長補佐 村岡正良先生 実践報告:宮城県石巻北高等学校飯野川校 進路指導部長 早坂祐次先生
第5回	学校と支援機関で協創する安心の場ー高校生が安心して想いを語れる居場所カフェづくりー 話題提供:宮城県教育庁高校教育創造室県立高校開設準備室 第一班室長補佐 村岡正良先生

昨年度に引き続き認定 NPO 法人パノラマ理事長 石井正宏氏を講師として招聘するとともに、県教育庁高校教育課や実施校教員にも企画段階から参画いただいた。研修参加者によるメーリングリストを作成し、継続的な情報共有体制の構築を行った。

(3)若者支援中長期ビジョンの推進

昨年度策定した若者支援中長期ビジョンの方向性に基づき、外部助言を受けながら具体的なアクションプランの策定及び実行を行った。

利用者像の整理、広報物の見直し、協力企業の開拓、実施校の整理、地域連携先の整理、プログラム内容の見直し等に取り組み、「地域で若者の働くを応援する」という方向性について現場レベルでの課題整理と具体的な取り組みを進めた。

【課題と考察】

2025 年度の NOTEcafe 事業では、高校内居場所カフェの実施校が昨年度の5校から9校へ拡大し、参加人数も大幅に増加した。新規校での実施に加え、継続実施校においても学校ごとのニーズに応じた運営を行うことで、生徒が安心して利用できる環境づくりを進めることができた。また、カフェや高校訪問をきっかけとして石巻 NOTE や地域の支援機関につながるケースも見られており、高校生年代への早期介入や孤立予防の機能を果たしていると感じている。今年度は、地域おこし協力隊や若者支援団体等の地域人材の参加、教員や県教育委員会高校教育創造室を巻き込んだネットワーク研修の実施を通して、学校だけではなく地域全体で若者を支える仕組みづくりを進めることができた。また、昨年度策定した若者支援中長期ビジョンを踏まえ、具体的なアクションプランの実行につなげることができた。

一方で、高校内居場所カフェに対する学校からのニーズは高まっているものの、事業の多くを助成金に依存している現状があり、安定的な運営体制の構築が課題である。高校生年代への早期支援や孤立予防に有効な取り組みである一方、その実施は個別の学校や地域の努力に委ねられている部分も大きい。今後は、地域全体の若者支援施策として位置づけられるよう、公的財源の投入や制度化についても検討していく必要がある。また、学校、行政、地域団体等との連携をさらに深めながら、持続可能な実施体制の構築を進めていくことが課題である。

(執筆担当：長岡千裕)

■宮城県若者こころの支援事業

事業名	宮城県若者こころの支援事業
助成委託団体・助成金名	宮城県委託事業（宮城県保健福祉部精神保健推進室精神保健推進室）
助成・委託期間	2025 年 4 月～2026 年 3 月
事業概要	若者の自死予防をはじめとするメンタルヘルス対策の推進を目的とした普及啓発事業を実施。 ①大学生ゲートキーパー養成講座の実施②若者のメンタルヘルス対策に関する普及啓発③若者こころの支援会議の開催を3本の柱とする。

【事業内容/成果】

（1）大学生ゲートキーパー養成講座の実施

回	月日	対象者	議題等	参加者数
1	6 月 23 日	東北医科薬科大学全学部全学年	セルフケア講座	102 名
2	10 月 10 日	東宝福祉大学教育学部・福祉学部・街づくり学部	セルフケア講座	254 名
3	11 月 13 日	東北福祉大学教育学部教育学科3年生	セルフケア講座	30 名
4	12 月 17 日	尚絅学院大亜学生相談室主催	ゲートキーパー養成講座	4 名
5	2 月 6 日	仙台白百合女子大学キャリアリソース課	セルフケア講座	15 名
6	2 月 16 日	東北学院大学全学部4年生+他学年希望者（オンライン）	セルフケア講座	30 名

目標3大学を上回り6大学にて出張講座を展開。大学との連携を強固に多くの学生に伝えることができた。

【学生の声（アンケートより一部）】

- ・今までゲートキーパーという言葉を知らず、専門職向けの用語だと思っていましたが私でもなれるのだと関心を持って聞きました。身近な人に関心を持ち、小さな変化に気づくことの大切さを再確認でき、安易なアドバイスをするのではなく専門機関へ「つなぐ」という役割を持つのだと学びになりました。今後周りで困っていそうな人がいたら変化を見逃さず、「話してもいいよの雰囲気」を積極的に作っていきこうと思います。
- ・セルフケアは自分のこころの健康を保つために、自分で自分のこころのケアをすること、そして自分自身のこころを守ることだと知れた。日常生活の中で必要なことだと知ることができたのでこれから自分の生活に取り入れていきたい。自分なりのセルフケア方法を見つけて、メンタルが常に整った人でいられるようになりたいと感じた。また、友達や周りの人の心の変化に気づき、支援やサポートができる人にもなりたい。



（2）若者のメンタルヘルス対策に関する普及啓発（講演会開催）

① 9 月 10 日 14:00～15:00（オンライン）103 名

演題：若者の見えないサインに気づく力～地域で支えあうために、私たちができること～

講師：佐藤 利憲様（公立大学法人福島医科大学看護学部 小児・精神看護学部門講師）

【一部感想】夏休み明けで自死に関する報道が多い時期のタイムリーな情報でした。今の若者の様子をおり交えてお話していただくことでより理解しやすかったです。子どもたちへの具体的な声掛けや SOS など、常にアンテナを張り、子どもの安心できる環境、寄り添うことの大切さを考える時間となりました。

② 2月2日 13:30～15:30（対面）12名

演題：レジリエンス×LEGO® SERIOUS PLAY®メソッドを使ったワークショップ

講師：猿渡 英代子様（合同会社ビーウイズ代表）

【一部感想】言語によるコミュニケーションでは表現しきれないことも、レゴブロックのように誰にでも簡単に取り組める創作活動を通して垣根なく自由に表現することができ、自分が今どう考え・感じているのか等の会話がしやすくなることを実感しました。

（3）若者の自死対策を更に推進するための研修・普及啓発

① ギャンブル等依存症の予防・対策を目的とした講演会の実施

日時：2月18日 14:00～15:30（オンライン）

演題：依存症について知ろう～近年増えている若者のギャンブル依存を中心に～

講師：片柳 光昭様（せんだいG&A クリニック心理士）

【一部感想】依存症そのものへの理解の入り口の確認からとらえ方まで、新しい切り口でお話いただけたのでとても勉強になりました。支援者視点でのお言葉や関わり方に対してのお言葉がとても身に沁みました。

日々の支援に向けた活力をいただきました。

② 学校・教育関係者対象 学生のSOSの受け止め方研修会の実施

日時：3月6日 13:30～15:30（仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール）

演題：みんなで創る支援の場 ～働く人も、聴く人も～

講師：内田知宏様（尚絅学院大学心理学類准教授）

【一部感想】『愛情よりも敬意が先』『専門職員である前に社会人、人としてどうか』『支援は個人技ではなく構造』等、とても示唆に富んだ内容で勉強になりました。ハームレスコミュニケーションを拡大して支える支援が増えていくことを期待したいです。

（4）若者こころの支援会議の実施

県内大学関係者、宮城県保健福祉部精神保健推進室、宮城県精神保健福祉センター、民間若者支援団体（一般社団法人ワカツク）、事業主体団体 Switchにて構成。

第1回：2025年9月29日 16名参加（Zoom オンライン）

第2回：2025年2月4日 11名参加（Zoom オンライン）

第3回：2026年3月10日 14名参加（Zoom オンライン）

参加大学：石巻専修大学・尚絅学院大学・仙台大学・仙台市白百合女子大学・東北医科薬科大学・東北学院大学・東北工業大学・東北文化学園大学・宮城大学（大和キャンパス・太白キャンパス）・宮城教育大学・宮城学院女子大学

【事業の成果】

昨年度に引き続き、モデル事業の実績を活かし安定した土台の元に一定の効果を上げることができた。今年度は一大学にての新しいモデルとして、数か所に跨るキャンパス間を繋いだハイブリット開催+後日オンデマンド視聴期間を設けオンデマンド、の構造似てセルフケア講座を大学側で展開。学生のみならず教員の視聴も多くあり、より広く講座を届けることができた事例となり、大学のメンタルヘルスに対する興味関心の高さが伺うことができた。支援会議では宮城県自死対策計画や子ども・若者の自殺危機対策チームについての情報の元大学間で積極的な意見交換を行うことができた。各セミナー、研修会に関しては幅広い参加者がおり、地域のメンタルヘルス対策に広く貢献できたと実感している。

【課題と考察】セルフケア講座の開催の次のステップとしてゲートキーパー養成講座を受講するステップを踏んだ流れを作り、卒業後も地域のゲートキーパーとして活躍できる学生を増やしていきたい。

（執筆担当：小関美江）

■東北工業大学 キャリア講座委託

事業名	東北工業大学キャリアセミナーⅠ
助成委託団体・助成金名	東北工業大学 委託事業
助成・委託期間	2025年10月～2026年1月
事業概要	長町キャンパスライフデザイン学部生活デザイン学科2年生を対象に、キャリアセミナーを実施。

【実績及び成果】

講義の全体趣旨は本格的な就活の前に土台として必要な社会基礎力の習得をベースとし、キャリアデザインの考え方や多様な働き方、コミュニケーションやプレゼンテーションスキルの習得を目指す内容で実施。就活で大切となる学生のメンタルヘルスを支援しながら、将来のキャリアについて考えることができる内容とした。

回	日付	担当講師	タイトル	内 容
1	10月1日(水)	小関	学生のキャリア・デザイン	学生と社会人の違い・社会人基礎力とは自身のキャリアについて考える
2	10月8日(水)	今野	日本のNPOと企業の社会貢献活動について	世の中の多様な働き方を知る
3	10月22日(水)	小野	コミュニケーション基礎	コミュニケーション基礎理解
4	11月5日(水)	加藤	アンガーマネジメント	怒りの対処法
5	11月12日(水)	加藤	アサーション	自分もOK、相手もOKなコミュニケーション
6	11月19日(水)	加藤	メンタルヘルス	ストレスとセルフケア
7	12月3日(水)	小関	自分プレゼン術	プレゼンのポイント
8	12月10日(水)	猿渡	課題解決コミュニケーション①	LEGO アイデアワーク(2組は「文章の書き方」課題)
9	12月17日(水)	猿渡	課題解決コミュニケーション②	LEGO アイデアワーク(1組は「文章の書き方」課題)
10	1月7日(水)	小関	就職活動に向けて	インターンシップ・今後の就職活動の流れや必要な準備、EQ

【学生の声(アンケートより一部)】

- ・キャリアセミナーを通じて、自分の価値観や強みを改めて振り返り、自分がどのような人間かを見直す良い機会となりました。普段の生活や学びでは気づけない点も知ることができ、将来を考えるうえで貴重な経験になりました。
- ・将来の企業選びの際に、何を意識して選ぶべきかを具体的に知ることができました。私自身自分に合った企業に就職できるのか不安だったが、CSRなどを調べ企業を選んでいきたい。
- ・日常生活においてストレスとうまく付き合っていく必要があり、大きなストレスがうまれたら、そのストレスにあうセルフケアを実践すればいいのかなと思いました。自分なりの対処法をしっかりとしていきたい。

(執筆担当：小関美江)

令和7年度宮城県オンライン居場所支援モデル事業

事業名	令和7年度宮城県オンライン居場所支援モデル事業業務
助成委託団体・助成金名	宮城県（保健福祉部）
助成・委託期間	2025年4月1日～2026年3月31日
事業概要	対面でコミュニケーションをとることや外出することが難しいひきこもり当事者が、安心して気軽に参加できるオンライン上の居場所を開設し、社会とのつながりの回復や、家族以外の他者とのかかわる能力の向上を目指す事業。株式会社キズキとの共同提案で受託し、交流支援を弊法人、学習支援を株式会社キズキが担当し、運営している。継続3年目事業。

【事業内容】

毎週月曜日11時～15時及び月末最終月曜日17時～20時に、オンライン居場所「おらんちラウンジ」を開催し、交流・学習・相談の機会を提供した。対象は、宮城県内在住の概ね18歳以上のひきこもり当事者及び15歳以上で義務教育終了後、高等学校等に在籍していないひきこもり状態の方である。

本事業の特色は、当事者が自らの意思で参加しやすく、面談及び登録制により安心して利用できる環境を整えている点にある。また、オンライン上の交流にとどまらず、対面の居場所や支援機関への移行を見据えた個別支援を実施し、社会とのつながりの回復を支援している。

【事業の成果】

2025年度登録者21名（うち年度新規登録者7名、継続登録14名）、対面の居場所への移行は1名となった。広報活動に力を入れ、おらんちラウンジ利用者インタビューを動画1本、ニュースレターに2名の登録者よりインタビュー記事を掲載、発信した。インタビューでは、ひきこもり当時の思いやおらんちラウンジにつながった経緯、現在や今後への展望を語っていただき、オンラインから対面の居場所への移行支援という事業の特徴を具体的な事例として発信することができた。また、専用Instagramの開設や月1回の予約不要の体験会を実施した結果、初年度より幅広い年齢層の利用につながった。

【実績】

1. 問合せ

新規問合せ数	23件	新規見学体験数	8件
新規面談数	8件	新規登録実数	7件（全21名）

2. 登録者状況（21名）

性別	男性11人、女性10人
年代	10代5人、20代9人、30代6人、40代1名、50代以降以降0人
情報源	支援機関13人、ネット・SNS7人、チラシ1人
開始時の支援機関登録状況	相談機関7人、通所居場所機関3人、なし11人
対面の居場所への移行	1人（ユースサポートセンター）

3. おらんちラウンジの年間実績数

開催日数	42日	
交流・学習支援利用者数	実19人	延べ245人
個別面談	56件	
交流支援実施数	100回	実12名 延べ106人参加
学習支援実施数	134回	実12名 延べ139名参加
対面の支援機関との連携件数	74件	登録者10名に対する連携

【考察と課題】近年は、当事者や家族がインターネットを通じて支援情報を取得する機会が増加していることから、本取組はオンライン支援の意義や可能性について理解を深める一助になったものとする。一方で、現在も多くの当事者や家族に十分な情報が届いていないと考えられるため、今後も継続的な情報発信と広報活動の強化に努めていく。

専用ホームページ



■ 宮城県刑務所出所者等就労・定着ネットワーク事業「リ・トライ！」

事業名	宮城県刑務所出所者等就労・定着ネットワーク事業
助成委託団体・助成金名	宮城県就労支援事業者機構、宮城県更生保護協会、内閣府孤独・孤立対策
助成・委託期間	2025 年 4 月～2026 年 3 月
事業概要	法務省保護局の協力の下、宮城県就労支援事業者機構、職親PJ・宮城支部、仙台保護観察所を始めとする県内の更生保護関係機関等と連携し、県内で働き続けることに課題を抱える刑務所出所者等の就労・定着を目指す、ネットワーク事業です。2025 年度は継続 2 年目の取組みとなります。

【事業内容】

地域の更生保護関係団体及びその他の関係機関・団体等の支援者が連携し、地域支援体制の整備を進めます。そのうえで、継続的な支援を必要とする犯罪をした者等と、その支援者の双方に寄り添った支援を実施します。こうした「息の長い」支援を通じて、安定した地域生活の維持を図り、再犯等の防止と安全・安心な社会の実現に寄与することを目的としています。

【事業の成果】

2 年目を迎えた 2025 年度は、体験格差の補完、居場所機能の強化を目的として、講座プログラムおよび体験学習を実施しました。体験学習においては、社会貢献活動や自然とのふれあい、運動習慣のきっかけ作り、趣味や関心を広げるきっかけづくりなど、金銭面以外の“自分の支える要素”について参加者とともに考える活動を全 5 回実施しました。居場所機能の強化としては、参加しやすい場づくりのためのチェックインや、グループワークを通して対話の機会を増やす構成にて、全 12 回の講座プログラムを実施しました。プログラムの中核にはソーシャルスキルズトレーニング(SST)を位置付け、生活や仕事などの場面で必要となるコミュニケーションスキルの向上を図りました。

- ① 2025 年度登録者：34 名(リ・トライ事業通算 65 名)
- ② プログラム受講者：のべ 135 名
- ③ 体験学習参加者：のべ 31 名



Web サイトにて、活動報告書を始め、各回のプログラム・体験学習の様子を実施レポートにまとめ公開しています。



地域連携ネットワークに関しては、法務省や仙台市主催の再犯防止推進関連シンポジウム等に、企画立案段階から参画しました。その中で「リ・トライ！」の取組みを広く共有することができました。

また、法務省 令和 7 年再犯防止推進白書を始め、更生保護関係の冊子等に寄稿、掲載されました。

(執筆担当：本間 巧)

■ 仙台市災害こころネットモデル 委託事業

事業名	2025 年仙台市災害こころネットモデル事業
助成委託団体・助成金名	仙台市健康福祉局
助成・委託期間	2025 年 10 月 1 日～2026 年 3 月 31 日
事業概要	災害時の精神障害者支援をより円滑に行う為に、精神障害者の自助力の向上及び地域における事業所・団体間のネットワーク強化に資する活動の拡充を図る。

実績及び成果・課題

実績：

2026 年 1 月 29 日と 2026 年 3 月 4 日の 2 回実施。

1 月 29 日は、防災ナビの作成（せんだい安心ナビ・仙台防災ハザードマップ使用）、防災食の実食体験を開催。地域の 3 事業所と仙台・石巻事業所の合計 29 名参加し、それぞれに合った防災準備を進めることができた。今回参加した他機関からの評価は良く、事業継続の場合は 2025 年度同様に他機関連携体制で実施できるようにしていきたい。

3 月 4 日はスイッチ・センダイとユース PASSO 合同で避難訓練を実施し、防災ナビの作成（せんだい安心ナビ・仙台防災ハザードマップ使用）、防災食の実食体験を開催。

1 月に参加できなかった方が多く、改めて自分に必要な防災準備を進めていく大事さを確認することができた。



（執筆担当 三上綾佳）

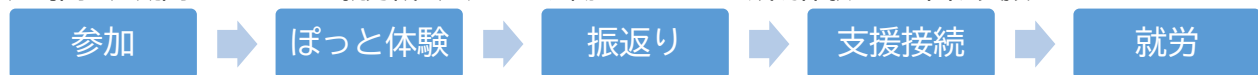
■ ひきこもり者への支援つき短期アルバイトの提供と、企業ネットワークの構築

事業名	ひきこもり者への支援つき短期アルバイトの提供と、企業ネットワークの構築
助成委託団体・助成金名	仙台市（仙台市市民協働事業提案制度令和7年度採択事業）
助成・委託期間	2025年4月1日～2026年3月31日
事業概要：本事業は仙台市市民協働事業提案制度において、仙台市障害者支援課より「ひきこもり者への直接的な就労支援」というテーマのもと、採択された事業である。ひきこもり状態にある方へ支援付き短期アルバイトを提供し、働く体験を通じた社会参加のきっかけづくりと自己理解の促進を図るとともに、必要に応じて支援機関への接続を行う。あわせて、受入企業に対する理解促進や企業ネットワークの形成を通じて、新たな人材活用と誰もが働きやすい地域社会づくりを推進する。	

【事業内容】本事業は、ひきこもり状態にある方や長期間就労から離れている方を対象に、短時間・短期間の就労機会と伴走支援を提供することで、社会参加や就労への第一歩を後押しすることを目的として実施した。就労支援の対象となりにくい方や、支援機関との接点が少ない方も参加しやすい仕組みを整えることで、地域における新たな就労支援モデルの構築を目指した。

●事業の流れ ～ぽっと型就労モデルの確立～

短時間・短期間・タスク型の就労機会を通じて、働くきっかけと成功体験を生み出す支援モデル



30名参加 | 33回実施 | 企業11社

完了率	97% (29/30名)
終了後支援機関接続	9割以上
終了後就労	16名 (53%)
うち、賛同企業での新規雇用	8名

【実績】

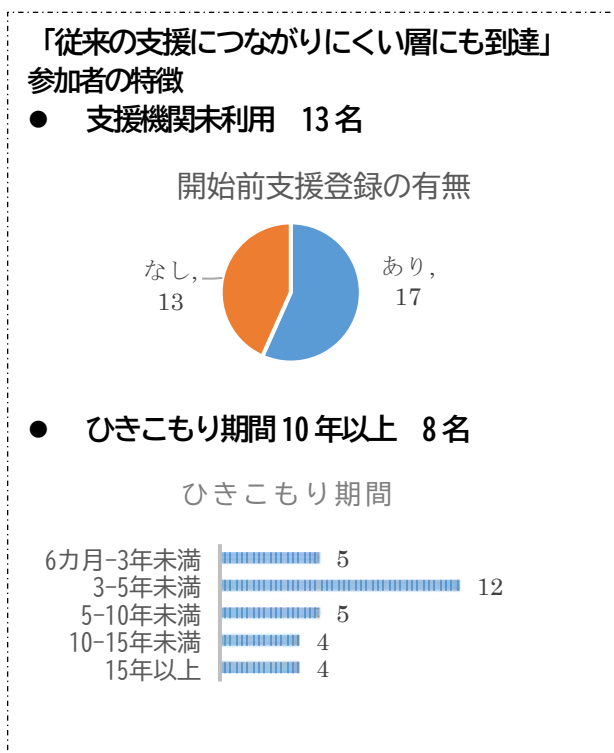
参加者30名、受入企業11社の協力のもと、支援付き短期アルバイト「ぽっと☆バイト」を33回実施した。参加者30名のうち29名が最後まで参加し、完了率は97%となった。また、事業終了後にアルバイトや就労へ移行した者は16名（53%）に上り、そのうち8名は受入企業で新たに雇用された。さらに、終了後に支援機関へ接続した参加者は9割を超えており、就労のみならず継続的な支援につながる成果が得られた。

本事業の特徴は、「参加しやすさ」「実践体験」「伴走支援」を組み合わせている点にある。参加にあたっては、1回の面談で利用可能とするなど手続き上の負担を軽減し、働くことへのハードルを下げた。また、実際の職場において短期・実務型の仕事を体験する機会を提供するとともに、初日の同行支援や就労後の振り返り、企業との環境調整を行うことで、参加者が安心して就労体験に取り組める体制を整えた。加えて、事業終了後も必要に応じて支援機関へ接続することで、就労体験が一過性のものにならないよう支援を行った。

参加者には、就労という成果だけでなく、外出機会や対面活動の増加、就職活動への移行、人との関わりに対する不安の軽減など、行動面・心理面における変化がみられた。参加者からは「働けるイメージが持てた」「人と関わる不安が減った」「また働きたいと思えた」などの声が寄せられており、自信の回復や社会参加への意欲向上につながったことがうかがえる。

また、受入企業からは「真面目に取り組む戦力として活躍した」「コミュニケーション面で成長が見られた」といった評価が寄せられた。企業側にとっても、これまで接点の少なかった人材との出会いや新たな雇用機会の創出につながり、人材確保という観点からも有意義な取組となった。

特に本事業では、従来の支援につながりにくい層へのアプローチが実現できた点が大きな成果である。参加者のうち13名は事業開始時点で支援機関を利用しておらず、また長期間ひきこもり状態にあった方も多数参加していた。こうした方々に対し、就労を目的とした支援だけでなく、「まずは一度働いてみる」という参加しやすい機会を提供することで、社会との接点づくりや支援機関との接続につなげることができた。



働くきっかけ、短期アルバイトから始めてみませんか？

支援付き短期アルバイト

ほんと☆バイトでできること

- インターンからスタート**
いきなりアルバイトではなく、まずはインターン（無給）から始められます。お試しのような感覚で安心。
- 支援スタッフが一緒に同行**
初日はスタッフが一緒に会社へ行き、フォローします。不安なことはいつでも相談OK。
- 履歴書は不要！準備も一緒に**
オリエンテーションで、必要な準備はスタッフと一緒に進めます。
- 訓練費も支給されます**
オリエンテーションとインターンは、1日1,000円の訓練費を支給します。（人数に限りがあります）

◎こんな方が対象です

仙台市在住のひきこもりがちな方（16歳以上）で、働きたい気持ちはあるけれど、不安があり一歩踏み出せない方

例えばこんな不安をお持ちの方、ぜひご相談下さい

- ・仕事をすることがない
- ・仕事について相談できる人がいない
- ・ひきこもりがちなっているので、きっかけが欲しい
- ・働きたいけれど、何から始めてよいかわからない
- ・プランクが長くなっていて心配
- ・失敗するのが怖い

等々、上記以外にもありましたらお気軽にご相談ください。

ホームページはこちら

【考察と課題】

本事業は、行政、支援機関（NPO）、企業がそれぞれの強みを持ち寄りながら連携することで実現した取組であり、市民協働による課題解決のモデルとしても意義があった。ひきこもり状態にある方の社会参加を促進することは、本人の生活の質の向上だけでなく、地域社会における孤立の予防や将来的な就労人口の確保にもつながることが期待される。

一方で、就労後の生活面・メンタル面に対する継続的な支援、参加者の年齢層の偏り、受入業種の偏りなどの課題も明らかとなった。すでに2年目の発展的継続も採択となっているため、今後は、就労後も含めた中長期的な支援体制の構築を進めるとともに、より幅広い参加者層への周知や、多様な業種・企業との連携拡大を図ることで、地域における就労支援の選択肢としてさらなる充実を目指していく。

（執筆担当 小野彩香）

■ Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs

事業名	多様な価値観を活かし、切れ目のない若者支援実現に向けた組織変革プロジェクト
助成委託団体・助成金名	Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs (国内助成)
助成期間	2026 年 1 月 1 日～2026 年 12 月 31 日
事業概要	当法人は 2011 年の設立以来、若者支援を中心に活動領域を広げてきた。組織の拡大とともに生じた課題に向き合うため、外部支援者（コンサルタント）とともに組織基盤強化に取り組む。新規採択・最大 3 年の助成期間の 1 年目。

【事業内容】

本事業では、職員間の共通言語・価値観の醸成と中長期戦略の不在という 2 つの課題解消に向け、コンサルタントとともに組織基盤強化に取り組んでいる。前者は多様な専門性を持つ職員間の意識の差、後者は長期的な方向性や資源配分の計画が後回しになりがちという点が背景にある。コンサルタントのリードのもと、組織診断の結果をもとに全スタッフ参加によるワークショップを通じて新しいビジョン・ミッションを策定し、次年度以降の中長期戦略策定へとつなげていく。

【事業の成果】

全スタッフによる内部チェックシートの記入と、関係団体へのコンサルタントからのヒアリングを実施。それらの結果をもとに、コンサルタントをファシリテーターとして理事・リーダー層によるワークショップを 2 回開催した。

ワークショップでは、ミッション・戦略・事業のマネジメント・リーダーシップ・財務管理など複数項目にわたる診断結果と外部ヒアリング結果を共有。その上で、「団体として将来ありたい姿」「重要課題とその背景」「優先課題と解決の方向性」などのテーマについて、参加者が自らの経験や視点をもとに率直な意見を出し合い、各回 3～4 時間にわたって議論を深めた。2 回のワークショップを経て、重点課題を絞り込んだワークシートが完成。現在、全スタッフへの共有と今後の課題解決に向けた計画の策定を進めている。



※（左）Panasonic NPO/NGO サポートファンド for SDGs 贈呈式の様子

※（中・右）ワークショップの様子

【課題と考察】

今回の組織診断を通じて、組織の強みと課題が具体的なエピソードとともに可視化された。理事・リーダー層によるワークショップでは、それぞれの立場から意見が出され、組織の現状について話し合う機会となった。今後は診断結果を全スタッフに共有し、組織全体での共通理解を深めた上で、ビジョン・ミッションの策定、さらには中長期戦略の構築へと取り組みを段階的に進めていく予定。

（執筆担当：多々良言水）

※掲載した画像につきましては、使用許可を頂いております。

■河北新報 2025 年 4 月 13 日（日）夕刊 とびらを開く「若者の就労・進学応援」

<とびらを聞く> 認定NPO法人Sw | t c h /若者の
就労・進学応援

1990年12月 12日

[illegible]

調査後すぐに発表されていくのは調査によるものではない。むしろ、その1日後に東京の本會が再開した。これは、臨時總會がある人々の希望は、サービスを通じて運動する予定だったが、臨時總會に反対や賛成が分れた。それらの意見交換が、この1日で行われた。



© 2000 Blackwell Science Ltd

製品、サービスと人が結びつく力を入れているのが、社会に貢献するための一歩を踏み出したといえる人々の姿です。社会の発展と幸福（「ユースタス」）は世界規模で取り組む「イノベーション」を通じて、世界の経済・社会の発展と幸福をつくりだすことを目指しています。



本報告係根據行政院農業委員會農情調查隊之調查資料，由本會彙編而成，以供各界參考。

トイの顧客は一面の笑顔が人達の精神的な安さを知らせてくれる。フレッシュセーの中心に、下、後、側面が作り出す空間は、実際に会うことを、そのギャップに感じし心を導く。と、静かに、同時に社会関係の変化が起るとも感じられ、静寂感には「静寂した心から起る変化」とも感じられ、そして、ついにトイとセーの両面が、その人の感情により、静寂感の立ち上がり、そして、その心から起る変化が、

さらに、夏場の旅行や温泉旅行等にも使い、いわゆる「グリーン」の人的知識や能力をフルに活用したいという課題も出てきました。

支援の現場では、単に課題を掲げられるだけでなく、課題のアクションが重要視されています。同時に、企業の「働き方づくり」が本舞です。検証、定量化の場面で長年のノウハウには驚かされず、むしろ「どうやって実現する、何が難しいか」の部分を課題とするなど、理解を深め意見を交わして、新たな取り組みが自然と生まれていくと聞いています。

おきこりから一歩踏み出すための準備として、短期アルバイトの経験（「バイト」）を奨励しています。おきこりの方が多い店舗などと思っている人も多く、本人の期待だけで、応募と面接しながらの成長が期待できる一歩を踏み出すことで、夢をかながして活躍することが可能なのです。

当館では、小中高生が自然観察が楽しくなっている現状を「自然観察」と合併して「生」
「このおらなはなかならぬ」という古い自然観察に導かれ、池いぼれたる前に、林下にも
植物の先生でせぬ」(『草木の先生』)とつながることによって自然観察と関連する。

※野さんには中興の巨匠が再と交わっている現状を「富平集」と位置しています。「こうあるべきでない」という強い価値観に導かれ、道に誘われる前に、親でなければいけない条件下には「富平の夫人」といふことが重要だと認識です。



Copyright © 2016 Pearson Education, Inc. All rights reserved.

「手塚氏、中塚氏の成立予想などに基いた海外部の設立英訳を中心に、現在」までで「国産
用カプセル」を開発して現場所をつくり、最終版のスタッフが日本の中で生徒たちの悩みや平
安に協力して対応しています。

また、大学生は高実学館付属として、建物の大半と連携し、自分から積極的に参加する機会やイベントを企画するなど、教養の心のケアに力を入れています。

「世界の『歴史』」という題は導入のためだけでなく、社会とのつながりを図る際にも、自分らしく生きるための知識の一歩です。SWTとcchは、その一歩を意見交換がゆだねることで、半日と地域の輪郭を捉える活動が続いています。

（つづいては後編、第2回まで）

●認定NPO法人NPO法人
 法人番号 9991-2-2952 公益財団法人日本NPOセンター
 代表者 022(762) 3953 (代表)
 受付時間 月曜～金曜の午前10時～午後4時
 ※土曜・日曜は休み

■河北新報 2025 年 6 月 16 日 朝刊 脱ひきこもりバイト紹介



■河北新報 2025 年 11 月 26 日 朝刊「料理学んで生活力アップ 刑務所出所者向け教室 仙台の NPO 初開催」



